

(2014年9月発行)

日本胃癌学会ニュース

日本胃癌学会 企画・広報委員会発行

第87回日本胃癌学会総会のご案内

第87回日本胃癌学会総会 会長 二宮基樹（広島市立広島市民病院外科）

歴史と伝統ある日本胃癌学会の第87回総会を2015年3月4～6日の3日間、「分化と統合」をテーマにリーガロイヤルホテル広島を中心に開催させていただきます。分化し発展した胃癌診療が、統合され更なる発展を成し遂げる場となることを心より祈念しています。

初日には、ふたつの plenary session を企画致しました。ひとつは胃癌治療ガイドラインのコンセンサスマーケティングであり、もうひとつは JCOG0110 をはじめ臨床的に極めて重要な臨床試験の結果が続々明らかになりますので、その結果を報告していただきます。

本学会では主題とともにポスター発表を重視し、基本的に口演は主題とその関連だけと致しました。十分な内容の提示ができて、参加者が繰り返し見ることができるポスターは魅力的な発表形態と思います。そして、ポスター発表の時間帯は基本的に他のセッションは閉じますので、多くの参加者が論議に加わっていただけることを期待しています。優秀演題には、広島県知事賞と広島市長賞を用意しています。

このたびの話題のひとつは、日本胃癌学会のなかで ESD 研究会が再組織され、新たなスタートをきることになったことです。高度に進化した ESD ですが、適応や技術等について外科系医師と論議できるのが大きな魅力です。ESD の更なる発展が期待できます。

特別企画の「日本胃癌学会による臨床試験の品質向上の試み ～研究者主導臨床試験の持続可能な体制整備のために～」はあるべき臨床試験の姿を論議し、「全ゲノム解析・エピゲノム解析から胃癌の治療・診断へ」では加速する基礎からのトランスレーションを論議致します。

広島は来年被曝70周年を迎えますので、「放射線被曝と胃癌」をテーマに講演を予定しています。

日本胃癌学会も年を追うごとに国際化の装いを強めています。世界をリードしているからこそ、韓国や中国をはじめとする海外の胃癌治療医に参加していただけるものと思います。International session は昨年と同様に open surgery, laparoscopic surgery, ESD, chemotherapy, future prospective of Japan-Korea collaboration trials 等のセッションを用意しています。世界へ発信できる論議を期待しています。

主題セッションでは、いま胃癌の世界で最もホットな話題である食道胃接合部癌、大

動脈周囲リンパ節郭清、conversion therapyなどに大きなスポットをあてています。昨年から進化した論議をお願いしたいと思います。

医師だけで行える医療は少なく、チーム医療の時代になってきました。この度の主題には医師のみならず、看護師、薬剤師、栄養士等々が応募・参加できるセッションを用意しました。積極的な応募をお待ちしています。

また、胃癌の歴史と若手の教育にも配慮を致しました。我が国の胃癌治療の幕開けから現代に至るまで、エポックメイキングなテーマを取り上げて講師に語っていただきます。過去を振り返り、現在を見つめ直す機会になれば幸いです。そして、若手医師のために胃癌診療の基本となるテーマや基本手術手技についての講義も用意しています。このような基本的な知識が最先端の発表を理解し易くするものと思います。

なお、学会翌日の3月7日（土）午後には、広島県民文化センターにて市民公開講座を予定しています。多くの市民に手術、内科治療、化学療法の分野で最新の知見を披露し交流したいと考えています。

広島は6本のたおやかな川と豊かな緑に包まれ、穏やかな瀬戸内海に面した魅力的な世界平和都市です。世界遺産も宮島の厳島神社、原爆ドームとふたつあり、3月は牡蠣もお好み焼きもお酒もおいしい季節です。どうぞ広島で日中は胃癌についての学術論議を徹底して行い、夜は広島の味を堪能してください。皆様のご来広を心よりお待ちしております。

第17回市民公開講座のご案内

金沢医科大学一般・消化器外科学教授 小坂健夫

謹啓

日本胃癌学会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、第17回日本胃癌学会市民公開講座を平成26年11月1日に金沢で開催させていただきます。

日本胃癌学会では、市民公開講座を通して、市民の皆さんに胃癌の予防、早期診断、最新の治療法までを広く啓発する活動を行い、胃癌死亡の減少に貢献しております。

今回の市民公開講座では、タイトルを「胃癌のやさしいお話」として、特に2つのテーマを取り上げました。第1は胃癌発生の予防、2次予防としての検診および早期診断です。第2は内視鏡的、外科的、あるいは薬物治療中およびその後のケア・支持治療・社会復帰支援です。内科医、外科医、リハビリテーション医そして栄養士の立場から、市民の皆さんにすぐに役立つ内容のお話をご紹介します。

第1部講演では金沢医科大学病院消化器内科教授の有沢富康先生と私の司会で、富山大学医学部第3内科教授の杉山敏郎先生に胃癌予防と内視鏡治療について、また東京慈

恵会医科大学外科学講師の中田浩二先生に手術治療と術後後遺症およびその評価と対処についてお話しいたします。次いで金沢医科大学病院リハビリテーション科教授の影近謙治先生にがんのリハビリテーションについてご紹介いただき、最後に金沢医科大学病院栄養部主任の佐古ひとみ先生に手術と栄養についてお話しいたします。

第2部Q&Aでは石川県予防医学協会予防医学クリニック院長の魚谷知佳先生と富山市民病院外科部長の藤村隆先生のご司会で、市民の皆様からのご質問に対して、ご講演の先生からわかりやすく丁寧にお答えいたします。

胃癌についての予防、早期診断、内視鏡治療、手術、薬物治療、リハビリテーションそして栄養と、多職種・多分野にわたる、中身の濃いプログラムになったと確信しております。教室員一同、広く市民の方の参加をお待ちしております。

謹白

《 開催概要 》

日本胃癌学会 第17回市民公開講座

日時：平成26年11月1日（土）14:00～16:30

場所：北國新聞交流ホール（tel：076-260-3555）

テーマ：やさしい胃がんのお話

講演の部（14:05～）

司会：金沢医科大学病院 消化器内科 有沢富康 先生

金沢医科大学病院 一般・消化器外科 小坂健夫 先生

1. 『ピロリ菌検査・除菌により胃がん死は激減できる』

講師：富山大学医学部第3内科 教授 杉山敏郎 先生

2. 『胃切除後障害の克服に向けて 一患者さん、外科医そしてチームができること』

講師：東京慈恵会医科大学 外科学 講師 中田浩二 先生

3. 『がんの治療とリハビリテーション』

講師：金沢医科大学病院リハビリテーション科 教授 影近謙治 先生

4. 『知っておきたい術前・術後の栄養管理』

講師：金沢医科大学病院栄養部 主任 佐古ひとみ 先生

Q&Aの部（15:55～16:25）

司会：石川県予防医学協会 予防医学クリニック 院長 魚谷知佳 先生

富山市民病院 外科部長 藤村隆 先生

世話人 金沢医科大学病院 一般・消化器外科 小坂健夫

事務担当 金沢医科大学病院 一般・消化器外科 木南伸一、宮下多佳子

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌編集委員会委員長 北川雄光

2014年7月、THOMSON REUTERS社から学会英文誌”Gastric Cancer”のImpact Factor (IF)が発表されました。昨年、3.989という評価をご報告させて頂きましたが、本年はその値をさらに超える4.828、私たちが期待していた予測値以上の結果でございました。このIFは、Oncology分野では202誌中40位、Gastroenterology & Hepatology分野では74誌中13位となり、前年よりもさらにランクが上昇しております。もちろん、IFはジャーナルの絶対的な価値を示す値ではありませんが、胃癌領域における研究発表の場として、高い評価を受けているということには間違いがありません。この2年のIF上昇は、2011年に掲載された胃癌取り扱い規約とガイドラインの英語版の圧倒的な数のcitationによることが大きな原動力となっています。この2つのspecial articleのcitationが反映されない来年度以降は、IFへの影響が出ることが予想されますが、Gastric CancerはHigh Qualityな基礎研究、臨床論文を掲載し続けており、今後も高水準を維持していけると考えております。いかに、Gastric Cancerが学術誌としての注目が集まってきているかは、投稿状況、Download数などのデータからみても明らかです。投稿数は、original articleを中心に年々増加傾向にあり、2013年の投稿数は395篇、2014年も上半期で既に268篇となっています。5年前の2009年の投稿数が88篇であったことを顧みますと、心から喜びと驚きを感じております。日本国内からはもちろん、東アジア、そしてヨーロッパからの投稿も増加しており、真の国際的なジャーナルとしての確固たる地位を築きつつあると言えるでしょう。Download数も、年々増加し、2013年度は初めて10万件を超え、119,159件でした。世界中の読者が関心を抱く、学術的に意義のある論文を届けることが出来た成果と考えております。Gastric Cancerの編集員一同は、これからも胃癌の診断・治療に関する基礎、臨床研究の成果を伝える国際ジャーナルとしての使命を果たすべく、より一層の努力をしていく所存でございます。

国際委員会からのお知らせ

国際委員会委員長 佐野 武

2015年は、胃癌をテーマにした二つの国際学会が南半球で開催されます。いずれも

日本胃癌学会と関係の深い学会・団体によるもので、皆様の参加が大いに期待されています。よい季節ですので、演題を出して学会を盛り上げるだけでなく、どうぞご家族連れでお出かけください。

第11回国際胃癌学会 IGCC

2015年6月4日-6日 ブラジル、サンパウロ

会長 Bruno Zilberstein

演題締切 2015年2月4日

<http://www.11igcc.com.br/ingles/>



第5回アジアパシフィック胃食道癌学会 APGCC

2015年3月16日-18日 オーストラリア、ブリスベーン

会長 Mark Smithers

演題締切 2014年11月2日

<http://www.apgcc.org/abstracts/>

Asia-Pacific
Gastroesophageal
Cancer Congress

Brisbane, Australia, 16-18 March 2015 • www.apgcc.org

